

COVID-19 に対する危機意識と健康上のトラブルに関する 自伝的記憶の関連性

1 7 3 2 0 5 1 久保勇馬

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

昨今、COVID-19 が世界中で猛威を振るっている。日本ではすでに多くの人がワクチンを接種しているが、ウィルスも変異を繰り返し、いつ収束するのか分からない状況である。そんな COVID-19 について、三密を避けたり不要不急の外出を控えたりと感染しないようしっかりと対策を講じている人が大多数を占めている。しかし一方で、ごく少数だが感染対策などを特にしない人もいる。また、対策を講じてはいるものの万全とまではいかない場合もある。また、新たな変異株に対してワクチンを 3 回目の接種を政府が勧めているが、ワクチンの接種を行いたくないという方も一定数いる。対策を講じている人の中でも「自分が感染することで自身が苦しんだり周囲の人に迷惑をかけたりの嫌だ」という考えもあれば、「周りの目が気になる」「みんながそうしているから」という考えもある。

こうした COVID-19 に対する個人個人の危機意識の差は、メディアからの情報や所属する集団内でのコミュニケーションなど様々な要因により生じると考えられる。そのような意識の差を生む要因の一つに、人間の記憶、中でも人生で経験してきた様々な出来事に関する記憶である「自伝的記憶」が考えられる。特に、これまでの人生の中で自分あるいは身近な人が経験した病気や怪我などの記憶が COVID-19 に対する考え方や感染防止の行動に結びつく意識の持ち方などと関係しているのではないかと考えた。

2. 目的

本研究では、COVID-19 に対する危機意識と自伝的記憶との関係性について検討を行う。そのため、COVID-19 に対する危機意識と病気・怪我・風邪等の記憶についてのアンケート調査を行い、これらの関連性について調査する。

3. 調査

3.1 方法

調査対象者： 本学情報科学部情報ネットワーク学科 4 年生 10 名（男性 8 名／女性 2 名）が調査対象として参加した。

調査内容： 調査対象者には、現在世界中で問題となっている COVID-19 による感染症への感染防止対策に対する考え方について回答をもらった。具体的には、COVID-19 への感染防止のために、どのような行動をとっているか（あるいは、とっていないか）、また、その理由について選択式（択一／複数選択）で、いくつかの設問に回答してもらった。その後、自伝的記憶に関する調査として、「小学校・中学校時代」と「高校・大学時代」に大きく分け、それぞれの時期における「健康上のトラブル（病気や怪我）の記憶」について自由記述の形式で回答してもらった。

手続き： 対象者に対して、COVID-19 に対する危機意

識及び怪我や病気、風邪等に関する自伝的記憶についてのアンケートの Google フォームにアクセスするための URL を配布し、回答してもらった。回答に際して、倫理的な配慮のもとに、回答に対して不快に感じたり、回答したくないと感じたりした場合には、中止・中断がいつでも可能である旨を調査対象者には伝えた。

3.2 結果

COVID-19 に関する意識調査の項目ごとの回答と健康上のトラブルに関する記憶についての回答をもとに表を作成し、関連性の検討を行った。

表 1 に、「COVID-19 への対策の徹底度合い」による自伝的記憶の内容（小学校・中学校）を示す。

表 1: 「COVID-19 への対策の徹底度合い」による
自伝的記憶の内容（小学校・中学校）

対策 具合	第一想起 内容	強い想起 内容	想起数	感染症
緩め			0	0
緩め	体調不良	体調不良	1	0
緩め	体調不良	体調不良	1	0
緩め	怪我	怪我	5	1
緩め	感染症	感染症	1	1
比較的	感染症	感染症	3	2
比較的	感染症		3	2
比較的	感染症	感染症	3	2
比較的	怪我	怪我	3	0
常に	感染症	偏頭痛	3	2

対策の徹底度合いが「緩め」と回答した人と「比較的徹底している」と回答した人で分類したところ、COVID-19 への対策を徹底している人では、小学校・中学校時代に「感染症」に感染した記憶が強く印象に残っている傾向がみられた。また想起された自伝的記憶のエピソード数（表中の「想起数」列）および感染症関連のエピソード数（表中の「感染症」列）も比較的多いという傾向が見られた。

4. まとめ

本研究では、COVID-19 に対する個人個人の危機意識の差が発生する原因がそれぞれの病気や怪我、風邪に関する自伝的記憶にあるのではないかと考え、アンケート調査を実施した。調査から得られたデータに基づき、COVID-19 に関する項目ごとに自伝的記憶との関連性を整理し、分析した。その結果、COVID-19 への対策を徹底している人では、小学校・中学校時代に感染症に感染した記憶が強く印象に残っている傾向にあった。また、高校・大学時代の比較的最近の記憶より、小学校・中学校時代の比較的幼い時代の記憶のほうが本人に与える影響が強い傾向にあった。